6-12　実践協力校における授業実践
事例⑫　鎌倉市立大船中学校
１年生　社会科〔地理的分野〕

ポイントになる主な学びのプロセス

・課題について考える
・様々な考えから、自分の考えを構築する

Ⅰ　単元計画

１．単元名　中学校第１学年　社会科〔地理的分野〕「世界の諸地域　アフリカ州」

２．単元の目標　「アフリカが本当に豊かな地域になるためには」

①アフリカ州を大観し、自然環境・文化・産業について知識を深める。

②大国からの支援や開発によってアフリカ諸国において持続可能な社会の実現の可能性を考える。

３．単元の指導計画（６時間扱い）

	ねらい（◇）・学習内容（◆）
1	◇持続可能な世界、生活を実現するために私たちはどのようなことを心がけるべきかを考える。 ◆「貿易ゲームをやろう！」：貿易ゲームを通して、先進国と開発途上国の関係を理解する。資源、資金、技術における各国の格差について知ることから、アフリカはどんな地域であるかを個人で考える。
2	◇アフリカの自然環境を大観し、環境的側面からアフリカの課題を見出す。 ◆「サハラ砂漠を緑化できるのか？」：サハラ砂漠における砂漠化を問題視させ、地図帳からサハラ砂漠の周辺地域の河川や水路などにどのような役割があるのかを推察し、さらに水資源確保の上での問題点を考える。
3	◇アフリカの文化の特色や変化について、歴史的背景やヨーロッパ州とのつながりと関連させながら理解する。 ◆「アフリカの独立は必要だったのか？」：アパルトヘイトが始まったきっかけを 16 世紀の奴隷制度から理解し、現在への影響も資料を用いて読み取る。また、現在のアフリカと欧州諸国との貿易のグラフから、先進国の需要がある点にも着目し、欧州との関係性について考える。
4	◇アフリカの産業と輸出品から、現在のアフリカが抱える問題を考えさせる。 ◆「なぜアフリカの製品にはフェアトレードが必要なのか？」：アフリカ諸国の輸出品の内訳を示したグラフから、モノカルチャー経済という問題点を読み取り、さらに、農作物や製品を安く買いたたかれている現状から、アフリカ諸国におけるフェアトレードの必要性について考える。また、フェアトレードが日本で一般的でないことから、どのように発展させるかを考える。
5	◇アフリカの抱えている課題について資料を用いて、探究する。 ◆「アフリカが現状で抱えている問題を世界はどのように開発支援しているのか。」：アフリカの人にとって取り組むべき問題を取り上げ、それに対し、どのような支援が行われているかを調べる。
6 本 時	◇アフリカの抱えている問題に対して、持続可能な社会の実現について考える。 ◆「アフリカの人にとって本当に必要な支援とは何か考える」：アフリカが抱える問題とそれに対する開発支援を挙げ、共有した後、アフリカが本当に豊かな地域になるために大切なことを考える。

Ⅱ　本時の様子

１．本時の目標　○アフリカ州が抱える問題とそれに対する開発支援について調べたことを共有し、アフリカ州が本当に豊かな地域なるために大切なことを考える。

２．本時の展開

「政治的教養を育む教育」で身に付けさせたい力の視点

過程	学習活動（活動の流れ）	ポイントになる学びのプロセス
導入	**○前時の授業で見出したアフリカ州の現状の課題と開発支援策を、付箋に書き入れる。** ☆アフリカの開発支援を考える時、最も優先的に取り組むべき課題を下から一つ選び、選んだテーマの具体的事例と、それに対してどのような支援が行われているかを簡潔に書きなさい。 （　食料　インフラ　教育　経済・貿易　紛争　）	アフリカが抱える課題を振り返り、優先されるべき課題は何かを設定する。（関心・意欲・態度） 課題について考える
展開	○４人班に分かれ、シートに各自の付箋を貼り、班で情報を共有する。 **アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援とは何か** ○発問に対して、班で各自の調べた開発支援について書かれた付箋を見て話し合い、「本当に必要な支援」と「支援する国々に有利な支援」に分類し、なぜそう分類したのか、根拠をシートに書き入れていく。 ＊先進国などの支援が、時に、利益の有無によって行われているという視点を提示することで、支援する側・支援される側双方の立場から、多面的・多角的に課題について考えることを促す。	アフリカへの開発援助について、多面的・多角的な視点で考察している。（思考・判断・表現） 様々な考えから、自分の考えを構築する。
ま と め	○アフリカに暮らす人々にとって本当に必要な支援とは何かを、本単元を振り返って考える。	自分の考えの「再構築」へ

目指す子どもの姿
様々な事例から、支援をする側の立場だけでなく、支援される側の立場に立って持続可能な社会の形成をとらえようとする姿。

Ⅲ　研究協議



１．自評

○学びのプロセスのうち、自分の考えの構築を重視し、アフリカ州の課題を生徒一人ひとりが「自分のこと」として捉えられるように意識して単元を構成した。「アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援は何か」という問い直しをすることで、支援をする側だけでなく、支援される側の立場から考えるきっかけを与え、最終的には、自分の考えの「再構築」を目指した。

２．研究協議のテーマ　**＊令和元年度は共通テーマで協議を実施。**

○提案授業における「学びのプロセス」（「身に付けさせたい力」の視点）につながる児童・生徒の姿とは

３．研究協議の成果と課題

成果・生徒たちは、自分が調べたことを根拠に課題に向き合い、自分の意見を構築できていた。
・「支援は正しいこと」という固定観念に疑問を持たせる問いとして、「(本当にアフリカのためになる)支援とは？」が提示されたことで、生徒たちの思考が揺さぶられ、議論が活発になった。

課題・アフリカ州の状況について、単元内容の理解度に差異があることが想定される場合は、例えば「支援の優先順位を決める」等、生徒の実態に応じた課題設定を吟味することが必要である。

Ⅳ　実践協力校での授業実践を基にした指導事例

R１-４　中学校１年生　社会科[地理的分野]　指導事例
「世界の諸地域　アフリカ州」

【単元目標】
・「アフリカが本当に豊かな地域になるためには」
①アフリカ州を大観し、自然環境・文化・産業について知識を深める。
②大国からの支援や開発によってアフリカ諸国において持続可能な社会の実現の可能性を考える。

【目指す子どもの姿】
・様々な事例から、支援をする側の視点だけでなく、支援される側の視点に立って持続可能な社会の形成をとらえようとする姿。

１　本単元の流れと「政治的教養を育む学びのプロセス」との関係

学　習　活　動（全６時間）	ポイントになる学びのプロセス
貿易ゲームを通して、先進国と開発途上国の関係について考える① ○貿易ゲームを通して、資源、資金、技術における各国の格差について知ることから、アフリカ州はどんな地域であるかを個人で考える。 **サハラ砂漠を緑化できるのか？＜自然＞①** ○サハラ砂漠の砂漠化を通して、アフリカ州の自然環境を大観し、環境的側面からアフリカ州の課題を見出す。 **アフリカ州の独立は必要だったのか？＜文化・歴史＞①** ○アフリカ州の文化の特色や変化について、歴史的背景やヨーロッパ州とのつながりと関連させながら理解する。 **なぜアフリカ州産の製品にはフェアトレードが必要なのか？＜産業＞①** ○アフリカ州の主な産業と貿易の特色から、モノカルチャー経済という現在のアフリカ州が抱える課題を見出し、さらに、アフリカ州の諸国におけるフェアトレードの必要性について考える。 **アフリカ州の課題を世界はどのように開発支援しているだろうか①** ○これまでの学習を通して、アフリカ州の抱えている課題について考え、資料を用いて調べ、探究する。 **アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援とは何か①** ○アフリカ州の抱えている諸課題をとらえ、持続可能な社会の実現の可能性を考える。 ・アフリカ州が抱える問題とそれに対する開発支援を挙げ、共有した後、アフリカ州が本当に豊かな地域になるために大切なことを考える。 Ｔ：全体で発表してくれるグループは挙手して下さい。 Ｇ：すべての開発支援は、援助する国々に有利になると考えました。 Ｇ：ＪＩＣＡ海外協力隊の活動は、アフリカ州の人々にとって本当に役に立つから、必要な支援だと考えました。 Ｇ：私たちのグループは、援助する国々に有利になると思った支援は一つだけです。 ～後略～ **Ｔ：今日の話し合いや、これまでの学習を踏まえて、アフリカ州が本当に豊かな地域になるために大切なことは何か、ワークシートに記入して下さい。（単元の振り返り）**	**ポイント１** **○課題について考える** **ポイント２** **○様々な考えから、自分の考えを構築する**

2　政治的教養を育むためのポイント

ポイント1

現代社会の諸課題を題材として、学習課題の設定を工夫しましょう。



政治的教養を育むにあたって、現代社会の諸課題を自らの課題としてとらえることは大切です。

本事例では、「貿易ゲーム」や「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」を単元の導入に活用することで、生徒自身が現代社会におけるアフリカ州の諸課題を「自分のこと」へとひきよせて考えられるよう工夫されていました。

ポイント2

生徒の思考を揺さぶり、多面的・多角的な思考を促す問いを設定しましょう。



「学びのプロセス」（「身に付けさせたい力」の視点）には、「課題について考え、自分の考えを（再）構築する」という学習活動が設定されています。**生徒の思考を揺さぶり、多面的・多角的な思考を促す問いを設定することは大切です。**

本事例では、**「アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援は何か」と問い直す**ことで、生徒達の思考が揺さぶられ、それまでよりも議論が活発になり、生徒自身が「よりよい社会」とは何かを自分なりに追究していく契機となっていました。

中学校社会科における「政治的教養を育む教育」につながる授業展開例

Ｔ：アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援が書かれている付箋はどれだろうか？これまで皆が調べてきた開発支援のうち、実は開発支援を援助する国々に有利になっているものがあるはずです。グループの皆で話し合って、付箋を分類してみて下さい。　～グループ内の話し合いは省略～

Ｔ：全体で発表してくれるグループは挙手してください。





Ｇ１：私たちのグループでは、**国も企業も利益にならないのであれば（アフリカ州の国々に）わざわざ支援しないだろう**との結論になったため、すべての付箋を、「援助する国々に有利になる支援」の枠に移動させました。

Ｇ２：私たちのグループは、ＪＩＣＡ海外協力隊の活動について書かれた付箋だけを「アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援」の枠に残し、それ以外の付箋はすべて「援助する国々に有利になる支援」の枠に移動しました。

Ｇ３：私たちのグループは、「援助する国々に有利になる支援」の枠に移動させた付箋は一つだけでした。例えば、**難民に古着を送る支援について書かれた付箋は、アフリカ州にある難民キャンプの人々の役に立つと思ったため、移動させませんでした。**

ポイント2

Ｔ：ある開発支援を、本当に必要なものと考えるか、援助する国々に有利なものと考えるかで見え方が変わってきますね。

～後略～

授業者が、「アフリカ州の人々にとって本当に必要な支援が書かれている付箋はどれだろう？」と問うことで、生徒の思考が揺さぶられて議論が活性化し、多面的・多角的な思考を促すことにつながりました。